



第1回「ありがとう週間」の果実



6月20日(月)から26日(日)は、第1回「ありがとう週間」でした。

日々の学校生活でお世話になっている人達、家庭や地域でお世話になっている人達への感謝の気持ちを、児童全員がリンゴ型の付箋紙に書いて、多目的ホールの「**ありがとうの木**」に貼り付けました。家族、担任の先生やその他の先生方、お稽古事の先生、友だちの〇〇さんなどに向けられた児童一人一人の感謝の言葉が“豊かな果実”となって、「**ありがとうの木**」にたくさん実りました。



6年算数で3人の先生によるチームティーチング

5月20日(金)・27日(金)、6月2日(木)・3日(金)・6日(月)・7日(火)・24日(金)の7日間、6年算数の2つの単元(分数のかけ算、分数のわり算)で、3人の先生によるチームティーチングを行いました。

分数のかけ算・わり算は、6年算数の中でもっとも難しい学習内容で、ここでつまずいてしまう児童が多いといわれている単元です。

そこで、通常のT1(算数専科：星口晋口先生)とT2(教育活動支援員：小口弘口先生)によるチームティーチングにT3を加えて、より“きめ細かな指導(机間巡視による個別指導など)”ができるようにしました。

星口晋口先生の発案で実施することになったこの取組の外部講師(T3)には、元北小学校職員で、平成24年度末に定年退職され、現在は白鷗大学足利高等学校の非常勤講師の職にある「前口康口先生」を依頼しました。

前澤先生は、現在の6年生が1年生だった時に、1年1組の学級担任をされた先生で、2年生だった時には、2年2組の音楽を担当されていますので、子どもたちにとっては、本当に久しぶりの再会となりました。

なお、前澤先生には、修学旅行の時に、三越の所でお見送りをさせていただきました。



【一斉指導】



【机間巡視】



【個別指導】

着衣泳 … 水は怖い！ 川や沼では絶対に遊ばない！

7月6日(水)の2校時(3・4年)と6校時(5・6年)、7月7日(木)の3校時(1・2年)に着衣泳を行い、「服を着ている状態で、川や湖や海に落ちてしまうとどんな感じになるのか」、「足の着かない水中で服や靴を脱ぐことはできるか」、「着衣で泳ぐにはどんな泳法がよいか」を実際に体験し、もしも間違っ落ちてしまった時に、慌てず冷静に対処するための知識と技能を学びました。

- 水中で服を着たまま動いたり泳いだりするのは非常に難しく、すぐに体力を消耗してしまうので、絶対に川・沼・湖・海に落ちないように注意すること。
- 水難事故に遭った時の基本は、「仰向けに浮いて救助を待つ」ことで、その時には、浮力の足しになる物を見つけて、必ず抱えるようにすること。
- 近くの岸や船を目指す場合の泳ぎ方は、「横泳ぎ」が適切であること。

夏になると必ず水難事故のニュースが多くなりますが、川・沼・湖・海というのは、おとなと一緒に付いていても、思わぬ事故に遭遇して命を落とすことがあるくらい、たいへん危険な場所です。

「水は非常に危険なものである」、「水のある場所には近づかない」、「水のある場所では遊ばない」ということをしっかり頭に入れて、水難事故に遭わないように注意して欲しいと思います。

したがって、子どもだけで川や沼に遊びに行くことは、絶対にやめましょう！



【1・2年の着衣泳】



→ 【こんな感じで浮きます】



→ 【ペットボトルでラッコ浮き】



【3・4年の着衣泳】



→ 【大の字になって浮く】



→ 【ペットボトルを抱えて浮く】



【5・6年の着衣泳】



→ 【水中で靴を脱いでみる】



→ 【着衣で泳いでみる】